

## 第11回区民版子ども・子育て会議

3月27日(金) 18:30-20:30

場所：三軒茶屋キャロットタワー4F ワークショップA

参加者：62人 スタッフ6人

松田 挨拶)

### 第一章 区民版子ども・子育て会議

全ての市町村で子ども子育て会議で子どもの計画づくりをしてきたのを、区民としても計画しようと呼びかけてきた会議。今日は今年度、参加してきた方、世田谷区で一緒に進めてきた人を紹介します。

真鍋さん(世田谷区)

小池さん(のぞわテットーひろば)

後半の第三章49pの記録を見て下さい。そもそも何でやったのか？行政での計画は先生や専門家などでの検討。世田谷区は待機児で有名。世田谷の子育ては待機児だけで現されるものではない、地域で子育てしている人はこんなにいる。地域側でやっていることがもっとこうなったらいいと提案できるけど、地域側のバックアップ、ネットワークができるといいなあとたまたま始めたが、次はいつ？と続いてきた。今回で11回目。ほぼ毎月の実施となってきた。計画づくりと並行して、全く同じテーマではなくて、私たちでのテーマでもやってきた。

小池さん

野沢にある「のぞわてっとうひろば」でプレーリーダーをしている小池です。住んでいるのは小金井市。私が区民版で感じたのは、行政と地域に住んでいる一般の人、子育て中の人がかんんに近くで話している場はないのでは、と感じた。若者の切れ目ない支援、外遊びなどいろいろな人が入り混じって、一緒に机で話せるのはすごく大きいこと。こういうことに一緒になって子育てや地域を考えるコミュニティのひとつになったのではと感じている。

子育て支援施設、ひろばをしていて、子育て支援施設だからこうしてよ、とサービスを受けるのが当たり前、ひろばだから当たり前というのもあって、行政でもそういう部分もあって、もう少し自分たちで意識してこうしたらいい、となればいいなと思った。

行政の人もしっかりしている、こうしていったらいいんだとサービスを受ける側ではなくて、当事者として参加することができるんだとわかってよかった。行政の人と直接話せることもなかなかない。生の声を聞かないと分からない部分もある。この会議をもっといろんな人に、子育てを考えられない人、サービスを受けるだけで終わっている人にも地域を考える機会になればいいなと思いました。

松田) (コミュニティワークブック参照しながら) 56p、57pはプレでしたが、第一回目は子ども部

部長さんに来てもらって、子ども部の計画を話してもらった。部長が来るので、区の人もたくさん来てくれた。4月3日が第一回目。異動したばかりの人もいたので名刺交換にもなった。写真は公募委員だった谷合さんがうつっています。会議だけだと行政の難しい文言を読み上げられておしまいとなりがちなのを、計画作りの話を聞くことができた。

第三回目からは世田谷区の方が場所を確保してくれた。場所を借りるのは大変で、共催で場所の確保をしてもらいました。テーマをその時々で新潟から講師を呼んだり、外遊びは児童課の皆さんから話を聞いたり、58P、59pは保育の待機児や保育園整備の話を保育園を整備している担当の課長さんから話を聞いて、衝撃の事実も聞いたりしました。

夏の「切れ目のない支援」では青年期も大事と世田谷区の子ども計画は39歳まで対象なので、若者も呼んで生の声を聞こうと、一番多参加者の人数が多かった。写真にも『大人の事情と言うな』など生々しい声もでした。

6回目やったときに内閣府主催で区民版を開催しました。内閣府委託で新制度の話を聞くことができました。この時にはよく来ている支援者の人はファシリになってもらって、参加者からグループファシリを誕生させた。予算が内閣府からでたので、ファシリのプロ：浦山さん（うらりん）に事前に来ていただき、ファシリの勉強をした。日曜午前の設定だったので、話しやすい雰囲気にしたたり、グループファシリをしてもらったことが大きなことだったので、その時の話をしてもらってもいいですか？

小池）グループが一般のお父さん2人、シングルのお母さん1人、保育園入れなくて困っているお母さん1人、後お一人は行政の人だった。最初のグループファシリで「ああしてほしい」ではなく、どうしたらできるだろうという話をしたかったが、こうしてほしいという要望が多くて、困っていたら、行政の人が丁寧に「わかります。でもね・・・」と説明しているうちに来ている人が納得していった。顔の見えない関係だと文句いいやすいけど、顔が見える関係になる事が相手の立場も考えていく、ということで話し足りない感じで皆さん帰って行ったのを覚えている。

松田）進行役になったことで変化は？

小池）今までは意見言うだけでだったけど、相手がどうしてそういうことを言うのかを考えることで、どれもが正しい意見で、正解がないなか、話していくのが大切というのを外から見て感じた。

松田）行政の人はグループの中にはいってもらったのですが、来ている人の声を聞くということで、説明は我慢してもらって、いろんな立場の行政の方と一緒に話ができただけなのが面白かったと思います。59pは世田谷区主催で「子育て都市応援宣言」を区民版で行いました。7回目のワークショップのファシリテーターはこの時も活躍。区の人は一連でどういう風にみていたのか、ほぼ毎回出ていた真鍋さんに聞いてみます。

真鍋）子ども計画推進の真鍋です。自分は計画担当ということで、子ども計画を作るのを担当。26年度で計画が終わるので、子ども会議を行政がつくるというので、委員から意見を聞いて、計画を作った事務局。2年間会議を計8回、まあまあやったと思ったら区民版は1年で11回。1回目は部長、課長、係長

と参加。最初はこういうところでは 2 年連続待機児童ワーストとおしかりを受けるなどと思って来た。頭を下げて帰ろうと思ってきた。最初から松田さんの声かけの仕方が また行きたいと思えるように言ってくれていた。行政が何をしているのかを知ってもらって、私たちが何をしたいのか考える会にしたと言ってくれるので、素晴らしいと思った。区がワークショップをすると行政側は端っこにすわって、見ていることが多い。区民の方から行政に言われるのを避けるために入っていないことが多いが、この会議は毎回グループにはいっても、グループの一人として話すことができる。現場で声を聞くことがないので、いい機会だった。計画づくりをすすめるので心におくことができた。

第 10 回の子ども子育て都市応援宣言を作るのが決まったのが 11 月。区民の皆さんと一緒に作る中で、時間がない中、ここしかないという区民版を、と相談したら是非、というので共催で開催することができた。感動した。午後の会では子ども・子育て都市応援宣言の 7 つの意見が貼ってあったが、どれも素晴らしい。実質 1 時間半だったのにどれも素晴らしいものだった。フレーズも心に響くものがあり、かなり反映したと思っている。最初は子ども達に責任がある、と書いてあったが、「責任」と言う言い方はちょっとね、と。「楽しく育ちます」と肯定的にしていたが、7 つのうち 3 つは「失敗してもいい」というのがあった。行政としては出しにくいのが、実際にはだしていきたくらいと思った。水色の配布物の出来立てはほぼほぼ宣言にちりばめられている。感謝申し上げます。

松田) ちょっと行政ぽかったですね。子ども子育て都市応援宣言もそうですが、めざす姿でしたか？

真鍋) 「子どもがイキイキわくわく育つ街」というフレーズが 2 回の時に、グループでみなさんにお知恵を借りた。投票もした。

松田) 最初は「子ども生きる力を育む」とあったのが、違和感があった

真鍋) まだ残ってはいるのですが、10 年後にどういう街になってほしいのかとなったときに「子どもの生きる力を育む」子どもが主体がいいという意見が多かったと思う。子ども計画だからそうだよ、翌日には内部でいろいろと話し合った記憶がある。

松田) 子ども会議の本会議はいろんな課題を解決するために、アンケートを元にコアな部分をしっかりとした計画をつくっていて、めざす方向性をゆっくり話す時間がない、私たちが話すところに来てもらって話すのがいい、と理念のところを話したことで、反映されることが 2 回目で体験できた成功体験があり、来ている人たちも嬉しく、意見を聞いてもらえるというのがいい、と区民版で実感した。行政の皆さんも忙しいなか、開催日やテーマも相談しながら毎回やってこれた。

グループファシリはどうですか？

真鍋) 素晴らしい。普通の参加者だったのに、ご意見をまとめながら皆さんの意見をひきだしていた。一人がしゃべりそうになるとうまく調整して素敵だなと思った。

松田) 活動にいかせそうですね？

小池) プレーパークでミーティングがあるが、そういう時に板書がやりやすくなった。ぱっと見て話していたことを思い出せた。こういうのを話したかったんだと。地域の力で成り立っている現場では役に立っている力だった。

松田) もっと学びたいということで、いい流れですね。

ちょっと立場を変えて、今までは参加だったのが引き出すということで俯瞰できるというので、これ、いいのではとなったのが 11 月。東京都が子育て応援ファンドを立ち上げ、モデル事業の募集がかかった。参加者だった人がグループファシリになったというのが面白かったという学びをやりたいと、そのテーマで応募して無事通ったので、コミュニティワークの勉強会をどうしたらいいのか研究を兼ねてやったのが、今日の冊子。子育ての視点からのコミュニティワークに入っていきます。第一部の前半はコミュニティワークです。

松田) 次は、ファシリの進め方を教えてくれた先生の浦山さん(うらりん)。コミュニティワークってなんだろうと話してきた「ハンズオン埼玉」の西川さん、参加者からファシリの勉強した「おでかけひろばぼっこ」の齊藤さんをお願いします。

2 月のコミュニティワークをしようというチラシで呼びかけた。とにかく来てという呼びかけでまずは 30 人集まってやってみたくてプレゼンした。区内で 30 人も集まるのか?と東京都の人に言われたが、世田谷区に縁のある人にしぼって参加を呼び掛けた。最初のきっかけはちょっと視点を変えて活動を見直したり、地域の課題を解決するのを一緒に話し合える人を見つけ、立場を超えて一緒に考えていける人と皆でやりたいという気持ちで声をかけた。うらりんから進めて来た話をお願いします

浦山) もともと看護師だったが、ファシリとして一緒の話し合いの場を作るとか、子ども達とは学校で動画を授業でつくるなどをしてきた。私がしてきたのはファシリテーション。松田さんがやってきたのは「むちゃぶりでーしょん」三鷹市民なので、世田谷も近い。世田谷はあこがれの地。世田谷からファシリを学ぶと言われたことがあった。関わってこられるのはありがたい。世田谷区が素敵だと思うのは市民の民度が高い。ドキドキあまりしなくても、必ず生まれてくる現場がある。最初は「ファシリテーションを教えてほしい」からだったが、やっていたことの視点を変えていただけです。

松田) 同じように呼ばれた西川さんの話も聞きつつ、進めていく。本としてはやったことと解説がついているという意図はらき。1 日完結型で 2 回実施。思考プログラムだから、実際やってみて聞いてみたというのが 1 回目。また話し合いをして 2 回目を実施。24 p から詳しくどんなことをやってきたかのっている。

コミュニティワークというのは武田先生が翻訳された「実践コミュニティワーク」には、私がやってみたいことがここにあったと思ったが、難しかった。子育てしている乳幼児期から子育てをしようと言う時にはぴったりこないところもあった。底辺と思われる人と一緒に、というのも見えなくなったけど、ヘルシーな人にも胸の内を話し合ってみるとそうでなかったというのもあり、そういう時の教科書としてめくってみるという本だった。またむちゃぶりで 2 人に相談して、何ヶ月か話し合いをしてきた。西川さ

んにも聞いてみたい。コミュニティワークってなんですかね？

西川) ボーとしていたら、というのが毎回。皆さんがいらしている動機がどこか合うのかもわかっていない。初めて聞いた人はどのくらい？ まだ・・・ですよ。でも知っている人がこれだけいるのも、まずない。ハンズオンで10年して、NPO支援も10年ぐらいしている。子どもも保育所で育てている保護者として地域に関わっているとサービスや制度はどんどんできていて、保育も20年前までは保育サービスや教育サービスはなかった。今は時間と人数でわって、数字で語るサービスになっていて、どうもおかしいと問題意識もあった。その中で感じてきた違和感もたくさんあって、日々関わっている中で。違和感を感じている人もいっぱいいると思う。

コミュニティワークが違和感に対して指針となるものではないかと思っていて、声がかかったときに来た。遅くまで話したが、埼玉県民は地元肯定感0、夜遅くまで話していたのは、コミュニティワークはこうだ、というより、こうでもないあでもない話す時間が長かった。だんだん見えてきたが、冊子を見たときに最後にやっとみえてきたぐらい。この冊子は、「先走りバージョン」なので、概念もずれていたり、用語が変わっていきなり中、問題提議をして、皆が主人公になれる社会はこんな風じゃないかあんな風じゃないかという最初のものになればと作ってある。読むと『うーん』となるかもしれない。『うーん』の中から話して次を見つける冊子になるかなと思う

松田) やっていく時に決まっていくものではなく。「x x じゃなくて」でしか表現できない。「じゃなくて、どうしたらいい？」が多かった。話しあうところから始められる、が世田谷チック。偉い人、選ばれた人ではなくて、皆で私が一番困っている人と話をしようと話が聞けたり、子ども自身に話が聞けたり、そういうのをずっとしてきた。齊藤さんは冊子にも寄稿してもらいましたが、コミュニティワークに関わったことを話して下さい。

齋藤) 事件と言う怖いものではないのですが、私も「むちゃぶりでーしょん」でここに至る。こういうことをする清い志はなく、卒業式の謝恩会で、何か手伝えることがあったら、と言った一言からこうなっている。巻き込み力ってすごいなと思っている。そこから始まって、何十年子育て支援しているバックグラウンドがあるわけでもなく、日々やりながら日々失敗している。運営しながら失敗している状態。一番困るのが、コミュニティワークの中で関わり方が難しい。

区民版のいろんな会議のワークショップでいろんな人が集まって、いろんな人の意見が聞けたのは勉強になっている。ファシリも勉強になっているし、日々の活動にも生きている。会議長い。この船はどこにつくのか？泥船でずっとループしていて、ループしている中に何かポイントがあって、最後は港についたのかと今日思えた。

松田) 「指人形事件」はひろばを始める時のこと。夜なべで100個作ったというのが、そうじゃなくて、という話し。ずっとやり続けるのは無理だろう、最初のスタートでいい記念になったが、100個の指人形を作っていくのは無理。やってあげたいという気持ち、作っている気持ちは素晴らしいけど、1人で作るのはいないよなというのをどうやって話せたらいいかな、と思っていた。ずっとこのままは続かないというのをどうやったらわかってもらえるかと思っていた。一緒に話し合いながら客観的にみることができ

たりした。

今日は実際にいろんな思いで来てくれた皆さんとうらりん和西川さんと「あなたならどうする？」をちょっと皆さんとやってみたいと思います。どこにつくかわからない船と言いましたが、4人皆で漕いでたどりつくワークショップをしてみたいと思います。

浦山) 第一回目に出られた方は頭が痛くなるような状況があったので、第二回目にはリフレクションをしてつくりました。チラシにいたるまでのところで、なんのためにやるの？をいろいろ考えた。解説はすっきり書いてあるけど、そこまでが長かった。「じゃなくて」を繰り返しながら作って来た。課題をどうやって深堀するの？と区民版で関わっていただいたファシリテーションの皆さんに助けられた。振り返りの仕方も書いてある。24pからは2回目の記録。右側がどういう意図があったのかという解説。

「立ち話でこんな話をききました！」

「あなたな～らどうする？」

「私の友達の話しなだけで～6カ月になる末っ子が入院。上に小2と年中がいる。大変だよね」

36pにも同じのが載っています。いろんな相談をここにきている人は受けると思います。

こんな話をもし聞いた時、どんな風に思うのか、

音「あなたな～らどうする？」

ということを皆さんで考えていただく、ということで、皆さんにも考えてもらいたい。4、5人でどんなことを感じ取られているのか、5-6分。本来はもう少し知り合ってからやるのですが、自己紹介する時間がないので、ダイレクトに入ってもらいます。模造紙はメモ用紙と思って、むちゃぶりですが、こんな風に巻き込まれてきたので、みなさんもどうぞ巻き込まれてください。

<グループタイム 5, 6分>

浦山) 既にどんなことができるよね、というのがあったり、これを聞かないとわからないよねとなっているところもあるんですね。フセンの開き方もコツがあるので、ちょっとお伝えしておきます。お茶とかパンも先着順であるので、おとりになってください。

浦山) これ、というのがグループで大事、と思うのを3つぐらい「赤い」ペンでしるしをつけて下さい。ワークでしかないのであまり真剣にならず、お茶飲みながらで選択してください。

松田) リアルな「あるある」もあるからね・・・

浦山) だいたいつきましたか？もう少し時間が必要なところありますか？では、ここここは隣のグループを見に行っていて、隣のグループはどんなのがでたか伝えて下さい。戻ったところに座ってたグループは見に行ってください。

浦山) 区のこういうところに聞けばとか、よく出ることが38pの「支援」というのには3つある。個々に支援するというやりかた、サービスの提示、ご近所つきあいでやってあげる、という個を支援する地域になれば支援型の地域になるのでは、とコミュニティワークがひろがっているなかで私たちが願っていること。西川さんのお話があるので、5分お願いします。当事者参加型の子育て支援ってなんなのか？

西川) 武田先生の前座で。

個を支援するやりかた

- 1) 個と必要な支援をつなぐ
- 2) 当事者参加型の解決の場をつくる

学童の話。問題が起こると指導者が保護者側に投げつけてきて皆で話し合う。問題があると一般的には禁止にして、保護者に謝るというパターン。それを繰り返すと子ども達の遊びの質がおちていく。当事者になっていかないと問題の解決：けがが起こらないことが解決ではなく、子どもたちが楽しく過ごせるようにできるかというのが問題の解決。怪我が問題ではなくなっていく。

シングルでお母さんは夜もコンビニで働いている。大変なのに、お母さんは頼らない。コミュニケーションうまくないので、保護者とも仲良くできていない。学校も家庭の問題ととらえている。学童では問題を知っているので、いろいろな働きかけもできる。その家庭と一緒にいきていくにはどうしたらいいかを考える。コミュニティとしてどうしたらいいのか。

浦山) さっきの立ち話では当事者がみえてくるにはどうしたらいいか？武田先生、よろしくお願いします。

武田) 先ほど話を聞いた時には逃げた。なんで自分が逃げたのか、コミュニティワークは正解を持っている人が話すことではない。誰か何か知っている人がいて、話すことは皆さんの気づくチャンスがなくしてしまう。問いかけ難しくて、どういう問いかけをするかで変わってくる。「あなたならどうする？」だと個を支援するになりがち。「あなたたちならどうする？」「あなたの地域ならどうする？」のほうがいい。

保育園待機児が問題になっているけど、昔は保育園にも幼稚園にも行ってない子がいた。子どもたちはなんとか生きていた時代があった。今だって、親がいなくても周りの人がみていて、ささっと来てくれれば。スリランカで風邪をひいたら、10人がお見舞いに来る。誰もお見舞いに来ないというのが日本。

浦山) 困っている人がなぜ困っているか、困っている人に気づくことがアンテナが高い。気づくのも支援。困っている人を困らせていることに気づく。コミュニティワークのひとつの始まりかな。セオリーがあって、解決できるというものでもなく、いつも何かしてあげるというのではなく、自分たちが何かできることでエンパワーされていく

先走りは本走りがあると思いますが、ワークはこれで松田さんに渡します

松田) これがなんだったのか、グループで7分話してみてください。自己紹介もぜひ。

<グループタイム>

松田) いい機会だから聞いてみたいとかそうはいってもわからないとか自由にご意見、クレームを言って下さい。

松田) どんな話ししていましたか？

- 1) 目黒の子ども子育て会議の委員をしています。世田谷区はすごいよねと話しました。
- 2) 初めての参加です。子育て中の親御さんへの子育ての支援をできないかというプログラムをしている。コミュニティワークを学んだ。自分たちのやっていることもコミュニティワークの輪をひろげていくことになっているんだと思った。最近男性が小さい子や女性に声をかけると不審者と思われてしまうというのも変だよねという話も。

松田) 世田谷は子どもの事でも男性率高いのがおもしろい

- 3) 小川です。一番知りたかったのはけんけんがくがくがこの会議の準備をしているのが知りたかった。具体的な目標をたてられていたのか？

浦山) 19pのところのご質問です。ここを明確にしないとずれてします。ここを言語化するのをやります。ことばのしっくり感がこないとか。チラシの呼び掛け文にもでてくる。このワークショップでお伝えできたらいよいよね、ということ。

ここにおいでいただく方をリスペクトしようというのがあった。アンテナが高い方がおいでくださるというのをウェルカムでお迎えしたい。教えるわけではなく、体験したことを聞かせていただくというのが大事にした。コミュニティワークとはなんぞは？と明確にしたかった。困っている人が困っている、何が困らせているのか、真摯に聞いていく、知っていくことがもう一つ。相手の方が何かをしてもらおう立ち位置ではなく、困っている人ご自身の力で何かをやっていける実感のもてる子育て支援をしていきたいというのを実感したいというのがひとつのゴール。仲間をたくさんつくりたい。夜中までとはいいませんが、けんけんがくがく話し合うお仲間をつくりたいというのがゴール

松田) 質問はつきないと思いますが、この後も続いていくと思います。

武田) 最初の11~13pを書いています。最初は12, 13pを書きました。コミュニティワークが軽くとってもらってはちがう、というので11, 12pを書きました。コミュニティワークは社会的に弱い人たちの力をつかって一緒に動いていく試みです。子育てしている人が大変な状況におか



れている。2002年に「社会が子どもを育てる」を書いてから10数年たつて、コミュニティワーク、コミュニティオーガニゼーションを知らなかった。数年前は、つい去年もわからなかったと思う。あと数年後、1年後、2年後にはコミュニティワークの概念がわかっていただく。このテキストはお金だとしても買いたいものができると思います。これをじっくり10回読んでほしい。10回読んでわからなかったら、こういう会にでて、世田谷からひろがっていくことを願っています。

松田) 激励をいただいたところで、いい時間になったきた。今日も世田谷区が伴走してくださった。一番偉い人に挨拶を。岡田部長にエールをいただきたい

岡田) 世田谷区子ども若者部の部長をしている岡田です。11回目。去年4月に1回目をしてよくこれだけ積み重ねてきたなと思います。毎回出るたびにファシリの人の方が上手になったり、会が育ってきてるかなと思います。今日は他の自治体からもきていただいているようですが、先ほどまで区議会最終本会議がありまして、来年度の予算がご議決いただいた。今回の予算は子育て新支援制度のスタートにあたるので、我々も頑張って盛り込んできたつもりです。基盤整理は当たり前にはやらないといけない。それ以外にファミリーサポートや利用者支援の予算が今日認められたので4月から頑張っていきたい。

世田谷区の一番は区民パワー。区民の皆さんの力がどんどんひろがっていってくれることが大事なこと。役所と区民パワーがうまく力を合わせてすすめていきたい。役所では子ども子育て会議があって、学識の先生がいらっしゃっていて、子ども子育て会議を走らせながら、区民版でパワーや力をもたらしてきた。役所の子ども子育て会議は続いていく。一人親、生活困窮についてどうしようとか保育園の入園なども議論していければと思っているところ。区民版がどうなるかは知りませんが、ぜひ続いてほしいところです。

松田) ありがとうございます。本当に短じかい時間でしたが、いろんなところから参加いただきました。これからがスタート。下支えしていくことで、いろんな人がまきこまれていければと思っている。世田谷だけではなく、自治体の枠を超えてつながれる関係、地域の可能性にはもっともっとあると思っているので、普段やっていることとコミュニティワーク的なことをみつけながらやっていけたらと思っている。冊子はただ渡すだけではわかりにくいと思うので、また何かあれば呼んで下さい。